

六一 受信一三四〇〇逢二譯了〇一三〇電〇〇五四四
航作概本〇

五 基地航空部隊戰鬥概報着信艦所

機密第〇一〇八〇三番電

南部攻撃部隊戰鬥概報(三十一日一日)

一 銀河三機(雷裝二 爆裝一)〇〇〇四一〇〇一七沖繩周邊艦船
攻撃發進〇七三三ヨリ進撃セルモ二機發動機不調一機天候不良
ノ爲引返

二 一式陸攻四機九六式陸攻二機一八〇五一〇〇〇四沖繩及伊江島
飛行場攻撃ニ發進南方ヨリ進撃セルモ全機天候不良ノ爲引返
〇七一五哨戒機五機歸着一機ハ發動機不調トナリ〇七〇五臺東
ニ不時着

通二二一 呂一Bケ十二(二一三一七五號E)四二警

昭和廿年六月廿日

六 一 受領一七四六 譯了一八五四 電〇〇三八五 航作概本〇

至 魚 呂ノ島見張所



大島防備隊。寶島 佐領參謀長。指宿航空基地。口永良部島見張所。特攻隊參謀

機密第〇一一一三〇番電

宛 昨號 艇身輸送隊指揮官

一 貴隊四番艇本島ニ在リ昨夜二一三〇頃歸投セリ

二 機故故障中ノ三番艇(片陸飛行)ト二三〇〇頃迄同航分雖後同艇

行儀不明徹底の本島周邊捜索中昨夜東海上平穩ナル香雨視界不良

ナリ

三 三番艇ノ所在判明次第之ト合同南下セシムル豫定ナルモ天候ノ都

合候依リ口永良部島ニ避泊セシムル豫定。

通函〇〇 於四(九三八〇) 佐二放 山下(小林)

通三一。於十六(九)。(K) (五) 級

海軍

教 官 官 官 官 官
沖繩挺身連隊之島難之排之營地也。

暗 機 意 身。一一二五五番 艦
長 仁 屋 航 空 基 地
指 岩 航 空 基 地

六一 後 信 一 五 五 五
譯 信 一 五 五 七
譯 子 一 五 五 一 〇 三 三 六
以 富 士 航 空 基 地

航 空 機 〇

第十信課

昭和十一年六月廿五日

六三 受信開始 〇〇一四〇 〇一五六 〇一五三 電自 〇〇一一二二〇 〇一一二二〇 航概本 〇

石垣島警備隊

東通・聯合艦隊口・高雄通

沖繩根下・佐通・宮古島警備隊・一航艦艦隊口

機務部 〇一一五三五番電



三十一日戦闘概報

一、敵艦隊聯合一二三〇 一三五機 〇七〇五 〇一六四五 四乃至六機三

次二百里陸海軍飛行場海岸線附近 部隊餘機一三〇五、B.M.一四

機五〇〇〇高度三〇〇南西海面偵察ノ後南方ニ退去ス

二、一八五五水上艦艇一照離三〇〇〇南東海面南下一九二五見失フ

三、敵ハ左ノ理由ニ依リ先島列島關心ヲ有スルモノト判断サル速ニ中線

ノミニヨル索敵攻撃ノ如ク徒ニ敵ノ士氣ヲ鼓舞スルニ過キズコソク

通 六一一九 一二二七 於十六 (七四四二) 佐通 田中(機務)

六十六 (九六九〇) 佐通 (四十九五) 高機

昭和五年六月四日

ナル手段ヲ避ケテ適ニ特要三〇〇機ヲ當方面ニ配備制空權ヲ確保敵機
 動部隊ヲ撃滅シテ圖ラザレバ沖繩臺灣其ノ死命ヲ制セザルルニ至ルヘ
 (1) 有力機動部隊ヲ常備連日空襲証機數ハ奄美大島ヨリ大ナル事
 (2) 最近敵機ニ直リ艦砲射撃及敵潜水艦ノ浮海出現大ナル事
 (3) 陸軍ヨリノ情報ニ依レバ有力ナル敵空母部隊ハ南西群島方面ニ出
 發官古石垣ハ地形之ガ使用ニ適シアル事。

6-3

三 話授二〇一〇

電 〇〇一五六六五

作 〇

昭和廿年六月四日

緊急



父 根

母

島

警

備

隊

機密電話第〇一三〇四五番電 二分ノ一二

通報 横領參謀長

沖繩薩良間方面ノ戰訓ニ鑑ミ豫テヨリ三重島妹島兄等ノ偵察ヲ期シ
 活タル遠陸軍ニ協謀陸軍清少尉海軍中尉少尉ヲ各指揮官トシテ陸海
 軍大波各一變下士官兵各一〇名ヲ以ツテ本一日の三〇〇沖港發偵察澤
 邊洋隊長ヲ同行セシメ港灣水路ノ偵察ニ當ラシメタリ姪島ノ干丈設及
 西浦ニ各三箇小型機雷敷設妹島ヲ經姉島ヲ偵察シテ西浦ニ小型機雷ヲ
 四箇敷設一四〇〇歸着異狀ナシ。

通六二二二

天二日一五二〇〇〇母

一五三

6-2

人

六二 受信一五一〇
誤始二〇二〇

誤了一〇四五電〇一四〇五 依概〇ノ

緊急

發

高通

沖根A

傷着

機密第〇一三一〇〇番電 二分一

台參電二一二号
發第十方面軍司令官

宛三三軍司令官

騎敵進攻以兼既二月此間勇戰

攻東シ航空、戰果ト相俟ツテ未嘗有、大出血ヲ強要

シ帝國全般作戦ニ寄與セル所甚大ナルモ、アリト一機

此、時ニ當リ帝國陸海航空ノ主力ヲ與テテ義

号及。《電信課註 本電二分ニ既配布》(東通陸海始得不知誤字多々存)

通八八六 呂一Bケ七 (九六九〇KC) 休通 鈴木 (石井) 遲延

昭和廿年六月四日

6-2

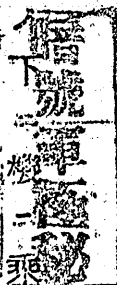
六二 受信 〇〇五四三〇五 譯了 〇六三五 電 〇一二〇五 作 〇

緊 急

沖 根

高 通

機密第〇一二一〇〇番電 二分ノ二



決

行セラルルコト實ニ沖繩作戰ノ勝趨

決

スベキ

モノニシテ只昔偉大ナル戦果ヲ祈念シテ止マザルモノナリ今や食軍將
兵ハ唯々精神力ニ依リテノミ敢闘セラルル状況ナルモ愈々懸軍一
体死カヲ盡シ以テ皇軍隨テノ精神ヲ發揮セラレンコトヲ切望ス第十方面
軍司令官本電受領セバ返電アリ度。

《電信課註 本電二分ノ一未着》

通六四七

局一B七

（ ）

（ ）

昭和廿年六月四日

6-3 [154]

六三 受信 〇〇四四五 譯了 一〇〇〇〇 電自 〇〇一一二七八 參作 標 〇
譯始 〇〇九二〇〇

作

參謀次長・聯合艦隊口・佐領尸

統

〇〇
二二
一一
〇〇
二二
四一
〇〇

球參電第五三九號 其ノ三五六

亦別ニ有力部隊ヲ以テ「與空原」附近ヨリ「イナクリネ」コチンダ」

方面進撃企圖シアルキ、如ク同方面「知念」半島ヲ奪回亦漸次活氣
ヲ呈シ

其ノ三未着其ノ四既配布 以下其ノ五

然レド千敵ハ漸ク我が企圖ヲ察知シ我が輸送力不足ノ爲軍尙後方整理
爲、如クナラズ正而陣地新主陣地帯内ニ集合シ得ル兵力ハ防衛召集者

一 二八五
一 二八七
一 二八九
協 作 (五二〇〇KG) 佐 通 戸田・谷島 (小崎君) (一)

砲兵後方部隊等々主隊トシ陸海ヲ併セ尙相當數ニ達ス見込然レドモ戰
闘資材兵器ノ類ニ至リテハ。

〔電信課註 本電其ノ一四七ニ配布其ノ他未着〕

6-3

ト

六三 受信。四三五
譯始。八三八

譯了。八五七

電自。三五六
至。三三八
作概。〇
本

昭和廿年六月四日

作

①

參謀次長・佐鎮口
聯合艦隊口

②

二一〇二五〇
一一〇二五〇

附號

球參電第卅三九號其一二四七

六月一日

南部ノミニテ

長砲兵本部大部分成ニ追躡シ

逐次南下中ニシテ主トシテ

和原及「那西軒」ノ方向ノミニテ百里

地區集結ヲ以東ス(以下其一二)

二軍ハ依然地域的ニシキウニ依リ引續キ能力ヲ降ケ軍需品ノ後

送ニ努メ一方主陣地帯強化ニ努力シテ(以下其一二)

殆ト消耗一箇聯隊僅ニ機銃一ヲ存スルヲ標準トスルガ如キ現狀

ニシテ兵器彈藥補給ハ進盾ノ急務ナリ。

(電信譯註 本電其一二四七以外未着)

岡野・山崎(杉)

大ニ度信ヨリ四四ノ誤ナク九ノ大電ニシテハ
誤ルハ一五
昭和廿年六月四日
赤松

作

着 参謀次長 聯合艦隊司令部

號

球參電等五ノ本號 其ノ

シコウシ方面ヨリ兵カヲ北部ニ揚陸シ主トシテ我
陸海軍部隊ハシテ敵ヲ新サト 俣ナクノ高ニシテ

於テ阻止シツツアリ
（電信課註 本電ニシテ四五六七既配有）

通三八ノ協作 (B) 左在保 戸田(所地)

6-2

仲

作戰緊急

六二 變信 〇九四〇〇 譯丁 一一二〇 〇〇〇七五三 航作標 〇

傍

暗號軍極秘

機密第〇一一六三〇番軍作成

針參 第一一四三號

球部隊參謀長ニ傳ヘラレ度

一、昨日空輸決行シ悪天候ニ阻マレ投下シ得ザルハ眞ニ残念ノ至リニシテ

軍ハ天候ヲ突破シ空輸ヲ遂行ス

二、投下所點ヲ再ニ明示セラレ度又日々ノ天候通知ヲラレ度

通七六一 呂一Bケ七(九六九〇)佐通 長谷川(島田)

局長	一課長	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九

昭和廿年六月四日

6-2

人

六二 受信 一八五五 譯了 二二五〇 電 〇〇二〇八六 作 〇



天一 陸作戦部隊

沖 綱 根

機密第〇二一四〇二番電 二分ノ二

沖根聯合隊戦隊聞概報(三十一日)

敵ハ西口ニ突入スルト共ニ約二〇〇ノ敵ハ那覇ヨリ波波藏與儀方面
侵透夫博地構築ヲ開始セルヲ以テ陽動地區ヨリ砲撃ヲ加ヘタリ
戦果不明 被害戦死下士官一兵三 重傷兵三

目下風浪アリ那覇古波藏國場方面ニ割込ヲ増勢シ艦船ノ往來頗繁ナル
ヲ以テ那覇古波藏ノ敵ヲ銃砲撃ス
小祿方面ニ對シ敵ノ迫撃砲艦砲ニヨリ反撃敵機ノ報復爆撃熾熾烈ト
ナル 戦果不明

九六八・一〇二七 一七七七(五八三)三三三(六三三)

昭和廿年六月四日

2nd

六 二 受備一九四五 譯了二二二一五 電〇〇一一〇五二 作概〇



天一號作戰部隊

沖根

▼

機密第〇二一四〇九番電 二分ノ一、二

沖繩根據地隊聯合陸戰隊戰鬥概報第五二號

二日一二〇〇部霸及古波藏ニ小型戰車(WS)集結古波藏國場附近

高地一帶ニ約五〇名障地構築中ニシテ我之ヲ銃撃中

尙約五〇〇ノ敵ハ首里ヨリ那覇方面ニ約五〇〇ノ敵ハ與儀ヨリ國場

ヘ移動中約二〇ノ敵ハ眞玉橋ヲ修築中ニシテ敵ノ小隊ヘノ進攻ハ眞

玉橋方面ヨリノ算大澄化シツツアリ敵ノ第一線ハ那覇國場一日橋本

部照屋購川神里ノ線ナルモノノ如シ海軍部隊ハ眞玉橋嘉敷ノ狀況ニ

鑑ミ宜壽ノ線ニ障地ヲ占領敵ノ一撃絲滿海岸ヘノ突進ヲ阻止シア

通 一九三九〇

呂一Bケ七

(七七八三五)

(一KFGB)

小原(小)

昭和廿年六月四日

6-2

昭和廿年六月四日

六二 受信二二〇五
譯始二二〇五

譯了二三三〇 電〇一〇一三

參作概本

緊急

高雄通信隊

停

沖繩根

機密第〇二一八二五番電

發 參謀長

宛 球參謀長

球參電第五二九號閣聯電

台參電第二六六號 球參電第五二九號 評誦之至難ナル戦況

於之尚飽ノ迄敵ニ出血ヲ強要スルノ策ニ出ガントスル貴軍ノ戰

闘狀況實ニ同情敬意ニ堪ヘザルト共ニ其ノ敢闘ニ對シテ衷心

敬意ヲ表ス更ニ渾身ノ勇ヲ振ヒ最悪ノ狀況ニ至ル迄赫々タル

貴軍ノ名譽ヲ發揮セラルンコトヲ祈念シテ止マズ

通一〇八六 呂一B 七(九六九〇KC) 佐通 高橋(増田)

6-3

人

六三 受信 〇〇二〇四五 譯了 一〇一四 電 〇〇一三三五 作 概

緊急

六航軍派遣通信隊

聯合艦隊口。第五航空艦隊口

傍

機密 第〇二二一二五番電 二分ノ一、二

二日戰國概報

一、南西方面（奄美大島）附近無天ノ爲豫定ニ依ル作戰行動ニテハ到底出來ザリシモ漸ク本日午後ヨリ回復シ始メタルヲ以テ本夜重爆七機ヲ以テ南西諸島（琉球嶼祝言島沖繩）明三日特別攻撃隊三十五機戰國機約五十機ヲ以テ沖繩南部周邊ノ敵艦船ヲ攻撃

二、本日ノ敵小型機來襲ニ方リ知覽ハ飛行場飛行機ニ損害ナシ特攻隊員一名整備兵二名敵機ノ銃撃ニ依リ戦死宮崎海軍基地ニ於テ破損機六零偵三機炎上セリ。

通 一一八七

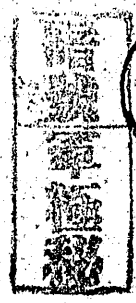
呂 一 日 々 十二 (三八二〇 RC)

甲田 (雨) 谷 關根 砲臺基地

昭和廿年六月四日

6-2

1550



作

作戰緊急

受信二二三〇六
譯丁二三五五
電〇〇一〇〇五六
航作機本〇

天航空部隊作戰命令着信機所

機密第〇二二一三五番電 二分ノ一二

發 參謀長

一 明三日ノ沖繩周邊空襲ニ於テ飛行機隊出發前ニ敵小型機大群南九州地區ニ來襲セル場合ハ指揮官所定ニ依ル三四三部隊ハ専ラ遂撃ニ〇三部隊ハ全力進攻大型機ノ編隊來襲ノ場合ハ兩部隊全力遂撃セシメラルル内意ナリ
二 明朝ノ空襲索敵ニ於テ敵機動部隊ヲ略三〇〇哩圏内ニ發見セル場合ハ第二戰法別法ニ依リ機動部隊ニ攻撃ヲ指向セシメラルル豫定。

通 〇〇一一四四五 呂一Bケ一二(七八七五) 一KFGB放
谷島。大内(金森)

司出

詳載特別緊急

六五 受信。一五。 誤了。三三。 電。三三五。 作概。

傍

聯合艦隊

〇三一〇三五〇

球參情電才六九〇号其一

一三〇九〇〇現在艦船狀況

「系滿」海面艦種不詳大型四C一D五「與座」大型

射擊中「漢川」南方海面B一C一D(續)

一電信課 註 本電其以下未着

通三三八 協作(五二〇〇七)佐通

昭和四年六月

山崎(新)

7

七、受電一五〇 設二二〇 電〇〇二五九
 設始三三〇 電至〇一五七一 作観〇
 参本〇

作戦特別緊急電 (著) 共 出

(出) (著) 聯合船隊 〇〇

通電先 聯合船隊 参謀次長 徳
 我参電第五〇六号 其二三
 〇夕刻ニ於ケル如上對馬

一戰線著者亦又ナク軍主力ノ戦進行動ハ進歩

調遣揚ニツッアツ

ハ然ル共敵砲艇隊撃テノ重傷ニ逐次ニキヤ山米島の方
 面ニ移行シテ依ル南西方新主陣地帯内
 ニ對スル敵機ノ攻撃ヲ並ニ北山岸近ク若干者ヲ勦

通電一五〇二五九 (七) 設二二〇 電〇〇二五九
 設始三三〇 電至〇一五七一 作観〇
 参本〇

昭和廿年六月四日

スルル小船一艘、配殿等、傍若無人、様相、
タニ対シ我諸行動若、
難此也。

三受信一九三一
譯始三一〇〇
譯了三一五〇
電〇〇七七〇
〇一七七一
作概
參事

特別
最急

傍

着 聯合艦隊 月

卷

共 符

三一〇三三〇

通電先 參謀次長 聯合艦隊 臺灣軍

球參電第五四七號 其一、二

軍命令ニ其キ中央並ニ關係方面ニ爾後航空作戦ニ對スル

戰訓報告等、連絡要務ヲ帶ビ先月十日以來待機中ナリ

ハシ當軍參謀「朝田」中佐ハ連絡スルト共ニ派遣ヲ中止スルニ付

三十日夕刻 三十日 月 及 山前 二、三、キヤ山 及 瓦一、トクヨ一、島

二向ハ

通一六四五 一六四九 協作 (五三〇R) 終通

三四 (原)

人

六三 受信一四二七 譯了一五四三 電〇一四三三 航作概〇

至急 出水航空基地



天航空部隊戰闘概報着信艦所
松島航空隊

機密第〇三〇八四九番電

出水部隊戰闘概報 (六月三日)

一 沖繩周邊敵輸送船團攻撃ノ爲ニ日二三〇〇陸攻三機發進〇五四五

一機歸着

二 一機通信連絡ナク未歸還ニ番機沖繩附近天候不良ノ爲引返ス

三 戰果未詳機ニ依リ不明

四 機密未歸還一機

通一四五九 呂一五六一二 (三九八五RO) 七〇〇B放菅原 (小幡君)

昭和廿年六月四日

仲

緊急		作	
長	長	天	平
長	長	海	勇
海	海	作	山
部	部	部	赤
J	G	H	井

機密第〇三一三五八番電

六三 受信一六二五 開始一七一四 譯了一八二一 電〇一五一五

作概〇
航本

昭和七年六月四日

符

六軍作戦要領計畫中

一 本三日月夕特攻約十五機ヲ以テ慶良間列島艦船攻撃

二 明四日朝以後機動部隊北上 海軍之ヲ攻撃スル場合左ノ如ク作戦ス

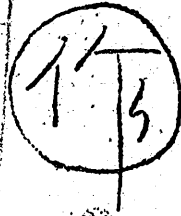
(1) 戦闘機ノ大部ヲ以テ海軍行動豫定ノ進撃掩護ヒシメントシ戦闘

機ノ一部ヲ以テ國分基地特攻發進掩護司偵特攻ヲ國分ニ前進海軍特攻ト同行攻撃ス。

編一五三〇 呂一Bケ十二(七八四五B)一KFGB放

大木(山中)

六三 受信二三八
 四三 譯始〇一〇八
 譯了〇一三七
 電〇〇一六五二
 航作 本機〇



六航軍戰團概報着信盤所

機密第〇三一四一〇番電 二分ノ一二

六航軍戰團概報 (三日)

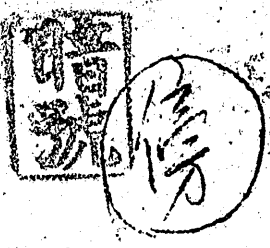
一 飛行第六〇及第一一〇戰隊ノ重爆各三機ヲ以テ兵器投下ノ爲出動
 脱受ニ一〇三〇〇頃沖繩島附近ニ到達一機ノミ目的ヲ達セルモ他ハ
 天候不良ニシテ投下地點発見シ得ズ 損害未歸還一機

二 特攻三三ヲ以テ〇九三〇一〇三四ノ間發進中城灣及嘉手納沖敵艦
 艇攻撃ニ向フ

三 〇八〇〇一〇九三〇ノ間知覽約四〇機都城八機ノ敵小型機ノ攻撃ヲ
 受ケタルニ當軍關係ノ地上ニ於ケル損害ナシ 戦果空襲ニ依リ

撃隊五機 損害未歸還一機
 通一七七十二 一八〇一 呂一〇ケ十二(七八七五KG)一RFB放 森(森 田)

6~4 1558



六
四
受信開始 〇二五〇〇
了 一二三三五
電 〇〇一九一四
作 概 〇

聯合艦隊

三一六三〇

參情電第四八四號其ノ二、三

系 狀況

三一日〇八〇〇一一日一五〇〇ノ間ニ於ケル沖繩方面出
北飛行場大型機艦載機六隊(戰闘五隊機數一)移動哨戒機四隊輸送
機四機(偵察機 三機不明 一機)不明機 五機中不艦載機 六隊
(戰闘機 二隊不明一隊)「イエ島」中イ三臺

東通註 誤字多キ爲メ完全翻譯困難

通 一八九〇 協作機一四(四七〇五)高通 岩佐(久保田)

昭和廿年六月六日

光

六三

受信
始一八〇〇
八五五

譯了一九一九 電〇一五八八

作
概本〇



海軍總隊口・元山空・一〇航空艦隊口・富高空基地

機密第〇三一七〇五番電

一 U F B 電令作第三九號

第三空艇隊指揮官ハ左ニ依リ G B 電令作第七〇號ニ依ル輸送ヲ實施スベシ

一 六月四日

二 元山、富高間

三 元山空艇留戰闘機輸送搭乗員二九名

通一六七六

於一七(一二六 E) 横通放

阿部(山中)

昭和廿年六月四日

六三 受信二〇三〇五 譯了〇一〇五 電〇〇一六六四 航作概本〇

緊急

共

符



天航空部隊指揮官・笠ノ原航空基地

天航空部隊戦闘概報着信場所

機密第〇三一七五八番電二分ノ二

二八一部隊戦闘概報

一九九式艦爆六機（沖繩艦船攻撃）零戦戦闘第三一三飛行隊十機戦闘第

三一六飛行隊一四機計二四機（沖繩連合制）一〇四〇乃至一一一〇

發進一六四〇迄二零戦三三一三八機三三六七機計一五機歸着

三戰果

一九九艦爆空母發見ヲ報ジタルモノ一機敵艦船發見ヲ報ジタルモノ一

機命中符號連送セルモノ一機其ノ後ノ情況不明磯三機ハ徳之島ニ不

通一七一四

呂一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

昭和廿年六月五日

時着（本日又ハ明朝攻撃ノ豫定）

（回）零戦一三〇〇頃ヨリ一三二五迄沖縄北端ニ於テF四U及F六F十數

機ト空戦撃墜一機（不確實）空戦中ニ認めタルモノ撃墜（F三U）

四機

三被害九九艦爆未歸還三零戦F三一三未歸還二被弾一S三一六自爆一未

歸還六

暗號軍極秘



受停 〇〇二〇〇

〇二四五 〇一九一八

作梅 〇

昭和六年六月六日

聯合隊

〇三一八〇五

要參機 〇四八五號 其一

二日〇八三〇一三日一十〇〇ノ明出系セル沖繩方面敵航空機状況
北飛行場關係戰鬥一〇隊(戰鬥五隊不明、五隊)移動警戒機八機驗受
機四機(到着三機)不明機三機中飛行場關係。

【電信機、本電其、二以下未着】

通一八三九

協作(四七〇五)直通

林(川崎)

人



六三
四三
作機
急
受言二三一七
始〇〇一五

岩川航空基地

作機
本〇

天航機部兼作機部令書信送所・藤夜航空基地

機密無〇三一八一五番機 二分ノ一

岩川笑部兼指揮官

明洞菊水一〇一機作戦ノ作戦要領左ノ如シ

一機機密機密機一六乃至一八機等機二機他三南九州航空又ハ機機

機六機

三機機自機機機全航機機機主力ハ伊江飛行場。

一七九五 呂一B 〇一二一七八七五〇 一五BGB放

昭和廿年六月五日

6~3

1564

作戰要領

六 三 送信 = 三三九
 四 二 開始。〇〇一五
 三 〇 〇 五
 電 〇一七五五
 航本 作概。

昭和廿年六月五日

作

着

天航空部隊作戰命令着信艦所
藤枝空基地

着

岩川空基地

機密第〇三二八五番電 = 分一二

三 着進時刻。〇〇以後主力ハ〇一四五以後
 四 攻撃時刻。一三〇以後主力ハ〇三四五ヨリ〇四五〇間
 五 此零戦六機〇三〇着進〇六一五一〇三五南九州制空状況ニ依リ
 本日零戦索敵要領ニ依リ索敵攻速トナス。

（電信課註本電ノ之既配布）

通一七九六

呂一B T T 三七八七五 KC (一) K F 放

言稿(糸田)

六五 受信。三九九 譯了。一。一。 電。二四九七 作概。

電

傍

着

聯合艦隊

三一八二。

聯合艦隊

參謀次長

第六航軍第八飛行師團

球參電第五一九号其ノ六

爾余正面ニ於テモBCD二種目標ヲセンチメートルヲ要ス

四我ニ近接シ来リタル敵艦艇ヲ友軍監視ノ眼前ニ撃テ沈シ

我ノ軍ノ士氣ヲイヤカウエニモ 曰即揚セシメタリ。

電信課註

本電其ノ六以外未着

通三四三

協日

()

() 修通

才木(杉)

昭和廿年六月六日

六三 受信二〇二五 譯始二一三〇 譯了二二五〇 電〇一六一六 航作本〇

緊急 先遣部隊 (護衛部隊) 共 符



機密第〇三一八二〇番電二分ノ二三

E B 綜合情報第九三號

一 沖繩陸上戦線那繩神里與那原敵戰中

二 沖繩周邊〇八一五北中飛行場沖戰艦三隻巡洋艦一隻驅逐艦六隻

輸送船四〇隻糸滿沖〇三D三E五良間ニ相當大部隊到着セリ

モノノ如キモ兵力未詳

三 敵機動部隊〇九三〇頃へキヨ四六空母正規二特一B一〇C

へエセ一三A三B三針降西遠方一六節〇五二五ヨリ〇九二三迄

九州南部ニ百數十機來襲セリ我航空部隊ハ菊水九號作戰發動沖

繩周邊艦船ト併セ攻撃中ナリ。

二六三三二七〇〇 呂一Bケ十二(五二九五)六P口放 星・岩佐(秋葉)

昭和廿年六月四日

人

停

着

六三 受信 〇六〇六 譯了 三三〇 電 〇一九一五 作概 〇一九一六

特規

三一三〇〇

六航空軍情電第八〇八号 其一二

神繩方面艦船、動向ハ改勢ヲ呈シ策動ヲ準備シアリ
敵機動部隊ハ九州來襲ト關聯シ注目 其ノ概要

一慶良内列島ニ大船團到着セルモ詳細不明(二四〇)

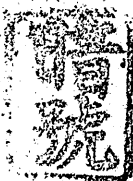
海軍報(一九四一) 切作(七八七五kk) 一k FGB夜 戸田(吾母)(1)

昭和十六年六月六日

三、ヨロシ島西方ニ艦船約二隻集結ノイヤ
 島ヲ砲撃セルモ、如何ク一〇〇〇頃ヨリ火上セルヲ認め
 (ヨロシ島監視所報)
 三、知蘭隊長情ニ依ルニ日神繩周辺艦船慶良間ニ
 假泊セリト。

電信譯註(本電其ノ三以下未着)

(2)



六四 後信。六〇三
譯。八五七

譯了。九四一 電。一九一九

作概。

昭和十年六月六日

三一三〇〇

六航軍情電第八〇八號其三

(常時、約二倍)ヨリ 敵機動部隊存力部隊艦船出現シ

アリ又燃料糧秣補給完了ヲ報シアル艦船多シ慶良間方面
艦船行動活潑ヲ呈シアリ。

電信課註 本電其一二及其四以下未着

通一九四四 協作(七八七九地)一トフチニ致 長尾(於也)

六四 受信始〇〇八四一〇 譯了二四一七 電〇一九五九 作艦〇 航本〇

昭和廿年六月六日



● 東通。聯合艦隊口。佐賀口。高菅口
● 石垣島警備隊

機密第〇三二一〇九番電 二分ノ一

三日戦闘概報

來襲機(米機)延九六機〇七二〇。一四〇〇。一六四五ノ三同ニ巨
リ二〇數機其ノ他〇四〇〇。〇六〇五。一八二五。四乃至八機編隊
ニテ四次ニ巨リ陸海軍飛行場及堅野崎周邊銃撃。

東通註、本電譯始符不解ノ爲譯文遅延ス
電信課註、本電二分ノ二既配布

通一九三九 天二日ケ十一(B) 佐通 奥野(川崎)

六三
受信ヨ三三三
譯始ヨ五ヨ
譯了ヨ五三五
電ヨ一ヨ二
航作
本概。

昭和廿年六月五日

護衛隊

着

受

向佐鎮日高警日

石垣島警備隊

茶

高島警備隊

機密ヨ三三三ヨ九番電 二分一三

在空時尙概本時尙別ヨ七ヨ三ヨ十數機不
二了數機 P 1 49 B 1 2 1 機本島南方ヨ通
數果十シ 被害數死二輕傷二二十五機銃一
破壊
通一九ヨ六 天ニB 4 2 1 (五ヨヨヨヨ) 通
村尾(行)

1572 6-4

六四 受信〇一一八 譯了〇三〇五 電〇一六九四

參作 本機

昭和廿年六月五日

至 急

作

六航軍戰闘概報着信機所

共 符

機密第〇三二一五八番 電

三日六航軍戰闘概報追加

午前發進セリ特別攻 撃隊ハ三五機(内一機不時着三機引返)ニシテ無線裝備機一四機中九機突入ヲ報ス飛行第四七戰隊一七機ヲ以テ德之島迄同行掩護敵ト遭遇セズ

三一六〇〇知覽發更ニ特別攻撃隊四機ヲ以テ沖繩附近敵艦船攻撃ヲ實施ス

通一八四六 一八七二(一八七三) 一八七四(一八七五) 一八七六(一八七七) 一八七八(一八七九) 一八七九(一八八〇) 一八八〇(一八八一) 一八八一(一八八二) 一八八二(一八八三) 一八八三(一八八四) 一八八四(一八八五) 一八八五(一八八六) 一八八六(一八八七) 一八八七(一八八八) 一八八八(一八八九) 一八八九(一八九〇) 一八九〇(一八九一) 一八九一(一八九二) 一八九二(一八九三) 一八九三(一八九四) 一八九四(一八九五) 一八九五(一八九六) 一八九六(一八九七) 一八九七(一八九八) 一八九八(一八九九) 一八九九(一九〇〇)

1573

午前ノ激戦ノ結果ヲ左ノ如ク訂正ス
戦果撃墜八機損傷自爆二機未歸還三機。

人

六 四

受信開始 〇〇〇五七三

終了 〇一〇五 電 〇一六五〇

航作 機本 〇

作戰緊急

岩川 航空基地

傍

藤枝空基地・天流空部隊作戰令 通信艦所

機密第 〇三二二三 四番電

某部隊明朝天候許サバ列島線索敵攻撃ヲ實施ス

一 零 敵六機都井崎ノ一〇度ヨリ一六〇度間開度一〇度進出距離一二〇哩
二 零 星十機岩川ノ一六五度進出距離一六〇哩何レモ〇三一五以後發進

三二三四

通一八二八 於十六 (七七八七五 EC) (一五九九五放) (田)

昭和廿年六月五日

4

六 四 受信 〇二四〇〇 譯了 〇九〇〇 電 〇一八八七 譯 訊
譯始 〇七五〇〇

情報着信艦所

共 符

暗號軍艦秘

機密第 〇三二二五九番電 三分ノ三

三 編成五八 K D B ニハ A 一群ニシテ兵力シヤンダリラ (推定) 一〇三

四 戰艦二乃至三隻 (アイボワ級一ヲ含ム) 巡洋艦數隻 (超巡ヲ含ム)

驅逐艦六乃至八隻

五 シヤンダリラノ搭載機數 P 四 U 一 五 O T B M . T B F 一

三〇

六 作戰経路 昨年九月新裝米國出港ハワイ着爾後中部太平洋ニ於テ洋

訓練四月上旬ハワイ發五月二十三日頃 P U 着五月二十九日夜離逐

艦數隻ト共ニ P U 出港翌日他ト合同

一 八八六六 日一 B 六十二 (七八七五) 一 K F G B 日中 (新井) (一)

昭和廿年六月六日

七、發艦位置三五七度ヲ北上約二時間ニシテ種子島西側ニ至リ次テ南

九州ニ侵入セリト

八、P U 在泊艦船輸送船七二外不詳

九、使用電波中國四七五KCアリ。

〔電信課註 本電三分ノ一既配布〕

(二)



停

緊
急

六
四

受信一四五六
譯始一二四五

譯了一三五七 電〇二〇〇五 作概〇

沖
根

共
符

機密第〇四〇一一〇番電

二分ノ二

臺灣軍參謀長

通電先

球(聯)

通(師)

陸(靖)

貴軍計畫通信系概不異存ナキモ福岡臺北各二系ハ〇四一〇航空各一系トシ宜蘭新田原各一系ハ航空保安系(福岡新田原)又東京系ノ確保ハ極力努メラレ度。

(電信課註 本電二分ノ一既配布)

通二〇二二

呂一Bケ七(九六九〇B) 佐通

富永(上野)

昭和廿六年六月六日

6~4

1578

人

六四 受信一〇〇三
譯始一一五五

譯了二五〇〇

電〇一九三九

〇一九三八
航機本

昭和四年六月

停

報 着

小富士航空基地
天航空部隊

發

指宿航空基地

機密第〇四〇五七八番電

二分一二

六三四部隊(丁三〇二水止偵察機)指宿基地戰術概報第四號(三日)
 東海夜間哨戒一索二三二五發進電波探信儀故障、為進出一〇〇
 引返二〇一三歸着飛行高度六〇〇米、二〇〇米、二索二三
 五發進先端〇三三二先端附近天候不良、為進出二七五哩〇三五五
 歸着飛行高度一二〇〇米先端附近二〇〇三索故障、為發進海
 〇一七發進進出七五三哩先端〇二五二、〇四四〇歸着飛行七〇
 〇米、二〇〇米以上何レモ偵察ヲ得ズ、二三索電波探信儀良好大
 傾量雲量一〇雲高七〇〇、二〇〇米到島線中下層電雲多ク最低
 雲高三〇〇米氣流極メテ不良風南西六米、スト有リ視界極
 メテ不良ナリ

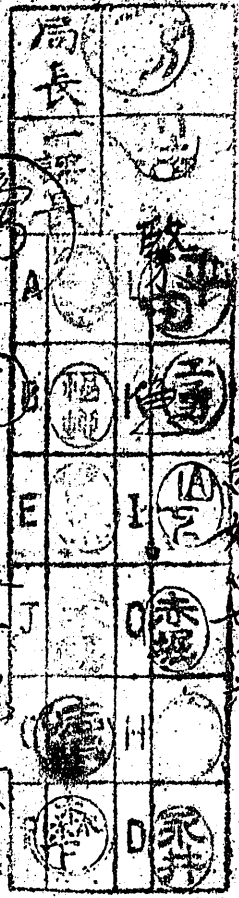
一九九四 呂一Bヶ十二(九八三〇KC)佐二放

見玉 (増田)

通一九六九
於十六(九六九〇K)蟹谷
山本(森田)

神繩
力花附近敵上陸ヲ開始ス。

機密第一四〇七八番電



天一號作戰部隊

神繩根 P

六四

受信〇七三〇
始〇七四六

了〇七四九

〇一八七

参作概〇ス

昭和廿年六月五日

六四受信。八二三
誤始。九四五
誤了。九五五
電。八二三
作硯。

昭和廿年六月五日

作戰緊急

津邊報

傍

天一號作戰部隊

機密第四。七三五番電

二日一回。以後真玉橋ヨリ西進セル約四〇〇。詳細不明。敵ハ三日二〇。根差部高入橋ニ侵入セリ。

通一。於一六（九八三）此情ニ就
情外（傍）日

人

六四 菱信〇八〇八 譯始〇八三四 電〇一八一五 作概〇 參本

緊急

傷

着

天一號作戰部隊

祭

沖

根

△

機密第〇四〇七三八番電

本朝來豐見城及鏡水、二方面ニ敵ヲ邀ヘ激戰中。

通一九七六 於十六(九六九〇Kc)蟹ヶ谷 望月(猪狩)

昭和九年六月五日

六四 受信。九五五
譯物一。四五五

譯了二三。

電。一八九六

作概。

昭和四年六月六日

作戦緊急

九五一空(小隊航空基地)

九五一空 佐鎮戸

機密中。四。八。三。五。電。二。分。一。之。

一 本朝来敵ハ小隊方面ヨリ上陸開始全員士氣軒昂此敵ヲ撃滅セントス

二 優秀ナル搭乗員多数ハ隨身兵隊ヲシテマ陸上戦闘ニ参加セシムルノ

記今午キニ至リタルヲ遺憾トス然レドモ全員

現在兵隊轉用裁製兵隊ノ考案ニ没頭苦心ノ結果

之ヲ完成ヲ見之ヲ以テ最後迄敢闘ノ豫定ナリ。

通一九九。

一九九八。

一九九八。ke) 神尾根 福島(川崎)

カエ 谷小原(川崎)

6-4

六

四 受信一六四〇九 譯了一七四五
至 〇〇二〇五五二 航作概本〇

至 急

天航空部隊戦闘概報報信艦所

共 符

機密第〇四〇八三〇番電 四分ノ二三、四

T F B 戦闘概報 (六月三日)

彩雲二機紫電一機〇五二〇ヨリ〇六四五迄ニ發進索敵〇八三〇
沖繩北端ノ一二〇度一〇〇溷ニ正規空母二隻特空母一隻戰艦一
隻巡洋艦二隻其ノ他十數隻ノ一群〇九三〇ニ沖繩北端九〇度七
〇溷附近ニ正規空母三隻戰艦二隻其ノ他十數隻ノ一群ヲ發見
以上ハ目視セルモノハ距離三〇〇溷以上ニシテ攻撃取止ム
右二群ハ航法誤差竝ニ視界不良ノ爲同一群ノ算アルモ搭乗員喜
界島不時着歸投セザル爲目下調査中

通二〇三八・二〇四四 呂一Bケ七 (七八七五C) 一EFGH放
二〇五二・二〇三三 山下 櫻澤 (1)
中野 福田 (石井)

二、四〇〇一 六六計約八〇機南九州地區ニ來襲銃爆撃被害輕微
戰果ナシ

三、陸軍第一〇次總攻撃ニ協同沖繩上空制空隊ハ一〇四五ヨリ一〇一〇ノ間ニ計六四機發進一部一三二五頃沖繩北端ニ於テ四〇〇一
六八一計約一九機ト交戦セル外視界不良ノ爲伊江(粟國島)上空
附近ヨリ反轉歸投セリ

四、四〇〇一 四機其ノ他一機計五機墜(未歸還機ノ分ヲ含マズ)
被害自爆未歸還計八機

五、沖繩泊地艦船攻撃ノ爲九九式艦爆六機一〇四〇ヨリ一一一〇間ニ
發進三機天候不良ノ爲徳之島ニ不時着他ノ三機ノ通信狀況左ノ通
空母發見ヲ報ジタルモノ一機巡洋艦發見ヲ報ジタルモノ一機
命中符號ヲ連送シタルモノ一機

六、本攻撃ニ參加セル陸軍側兵力制空掩護戦闘機計三六機特攻三一機。

(2)



暗號

六 五 受信〇〇三五八八 聯了二〇三五 電自〇〇二七九五 至〇〇二七九九 作概〇

聯合艦隊司令部

四一〇八三五

通電先 次長 (中央特情) 靖 總世 總律 上海支部 隼廣東支部 賊 G

重要情報 第四八三號其ノ一、二、三、四、五

B情報 (六月三日)

特攻戦果 (撃破三) 艦種不詳ニ上陸用舟艇ニ八六隻「オヤコフル」撃

破一「トドロキヤナト」一「ハイレシヨト〇五A」一「チヤーフル」ハ

船尾ノセツキベンノ修理ガ必要ナリ

「クトロバ」外四四「(輸送船)」「ストツブキヤツブ」(艦種不詳)

通二四二四 二四二五 二四二〇 協作 (日) 佐通 東 (松井) (一)

昭和廿年六月六日



撃破〇三〇七一「トロヂヤン」一「マツケル」アタ「クロバー」八四四
り下ヲ卸セリ死傷ナレストツブギヤツブモ全部荷物ヲ卸セリニ
ノイガ損傷ヲ受ク

三「ペン」ロツド〇六四八「上陸用舟艇」撃破坐礁〇二二〇「シヂヤ
ン」ニ「ベケル」宛「ペン」ロツドニニ四八ハ尙坐礁レタイル。

【東通社 本電観字極ノテ多ク翻譯困難】

作

作戰緊急

佐通・東通・鹿屋空基地

共

符

六 四 受信 一一〇二五 譯了 一三五〇 電自 〇一九八四 作概 〇 至 〇一九八六

機密第〇四〇九一八番電三分ノ二二三

發沖根司令官

宛佐鎮長官 次官

次長 G 長官

第三二軍ハ六月二日〇九四〇各部隊喜屋武半島南部ヘノ兵力集中行
動ノ目的ヲ達成セリ此ノ間海軍部隊ハ小祿地區ヲ虛點トシ陸軍部隊
輸送ノ支援ニ任ゼリ第三二軍ハ六月二日以後小祿地區ニ殘存セル海軍
兵力ノ主力ヲ喜屋武半島南部ニ合流セシメントスル最初ノ方針ニ從
ヒ當方亦着々準備中ナリシ處ニ日夕刻ヨリ敵ノ進攻急ニシテ眞玉
通二〇〇二・二〇〇八・二〇一六 日一七ケ七 (九六九) 長谷川
九八三〇 高田・山下 (右計)

昭和廿六年六月六日

橋、嘉敷、根坐部腦ニ於テ豫備隊（槍部隊）ノ大部分ヲ戰鬪ニ參加
 セシムルノ情況トナリ更ニ四日早朝小祿地區海正面ヨリ激上陸開始
 ノ爲 激 戰ヲ展開スルニ至リン爲遂ニ陸軍部隊ニ合同不可ノ状態ニ
 至レリ
 右事情ニ依 海軍部隊ハ最後ノ一兵ニ至ル迄小祿地區 死守セシ
 ス本職ハ三日夜司令部ヲ小祿第九五一空戰鬪指揮所ニ移轉作戰指導中。

6~4

1589



1945

七二A 戦聞概報 (三日)

局長	評議	局長	評議
A	B	E	J
G	H	I	K

天航信部家戦聞概報着信部所

六四 受信一七四三 開始一八一〇 開丁一九〇〇 電〇二〇六一

航作概本

昭和廿年六月六日

一〇七五〇ヨリ〇九一五迄ハ六ノヤリ四ノ一ニ計約八〇機南九州各基地ニ來襲

二〇八三〇ヨリ一六五迄三四三空紫電二八機ヲ以テ遂撃〇九三〇屋久島附近ニ於テ敵三〇機ヲ撃ノタルニ距離遠ク之ヲ逸ス

三〇八三〇ヨリ〇九四〇迄三〇三空零戦六機出水基地上空哨戒敵ヲ見ズ

四被害三四三空紫電一機油壓低下ノ爲國分附近海上ニ不時着落乗員行衛不明

通一七〇 里一ノ七七 (十八者五ノ) 一KFGG放 林 (松井)

6~5

1590

作

至急

六五 受信一八四五 誤了二二〇〇 電〇二七三七
誤始二一〇〇

航作機
本〇

報

着

高雄通信隊

東京通信隊・宮古島警備隊

機密第〇五〇八三〇番電

送

共

件

發 右垣島警備隊司令

宛 高雄警備府長官

通報 中野參謀長 大海參一部長 航本總務長 一八下參

謀長

宮古島警備隊司令左依り 紫電三〇〇機臺灣北東及宮古
通二七二八 天二日六十一(五三〇〇)機往通 甲田(細川)
(一)

昭和廿年六月六日



西ニ急配方詮議相成度 先ニ花月列島攻略作戦ニ禁行ル
 加活躍ハ一ニ制空權ノ確保ニ在リ 沖繩方面陸上作戦局面轉
 換亦然リト信ス。

9

六五、受信一八〇三、誤一九二〇。電〇三五八
設始一九〇〇。作概 昭和廿年六月廿四日

至急

石垣島警備隊

作

東通 高通 天号 作戰部隊各口

特號

報 沖持根 宮古島警備隊

機密方〇五二〇二番電

四日戰鬥概報

一〇三五敵艦上機七機未襲陸軍飛行場銃爆甚一〇五

ヨリ一〇五間PBM一機南東海面偵察東方ニ退去ス

二〇九四〇敵潜水艦一隻距離一万宮古島南西海面ヲ游ス

一七四〇再々浮上一九五。南東ニ見失フ。

通二七五。 才一六(九六九〇ke)佐通 小田(青山)

六五 愛信 一七五二 澤了一九一一 電自〇三五三
 澤始 八二〇 航概 〇
 至〇三五三五 航概 〇

作我緊急

台 湾 卫 卜

作

報

五基地航卫部隊指揮官

五基地航卫部隊概報着信艦所

概報 五〇五一五〇 番 三〇、一、二、三

新竹攻重部隊概報 (六月四日)

一七〇天山四枝 沖繩周邊 敵船薄暮雷音重、為奔進一様、
 一九一五地点、又上、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 連力一〇一節 附近獲敵、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 一九四〇攻重セルモ發射直後、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 後敵夜式三様、執拗、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 〇埋附近三於、二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 通 二六三、二六四、二六五、二六六、二六七、二六八、
 二六九、二七〇、
 二七一、二七二、二七三、二七四、二七五、二七六、二七七、
 二七八、二七九、二八〇、
 二八一、二八二、二八三、二八四、二八五、二八六、二八七、
 二八八、二八九、二九〇、

昭和廿年六月六日

日奈具 雷車 七毛 初果不 一棧 一九四五 活名 喜系
 北西 五 運 附近 三 輸 運 船 三 隻 駐 逐 艦 一 隻 揚 陸
 碇 泊 中 輸 送 船 雷 車 轟 沈 以 上 何 七 三 二 五 七 三 三 五
 歸 着 我 場 附 近 天 候 良 雲 量 九 一 一 〇 雲 高 一 〇 〇
 所 益 烈 九 〇 三 〇 七 〇 一 棧 天 候 不 良 為 申 途 引
 引 返 宜 蘭 經 由 五 日 早 耕 新 竹 歸 着

(東通註 誤字多未及運送)

(2)